

平成 26 年 4 月 19 日

北関東フォーラム

於：シムックス

## 中斎塾 北関東フォーラム

### 平成 26 年度第 3 回

#### 「知足」を掘り下げて見えてくるもの

中斎塾フォーラムの基本哲学は、知足（足るを知る）、良いことも悪いことも淡々と受け入れて満足しましょうということです。論語に「吾十有五にして学に志す」という一節がありますが、八十代・九十代がない。どういうふうを考えればよいかという問いに対する答えとして、宇野哲人先生や諸橋轍次先生方が、荘子の「将らず、迎えず、応じて蔵せず」という言葉を八十代、九十代の心構えとして推奨されています。これは非常に良い言葉だと思っております。「足るを知る」と相通じるものだと思っております。

私はこの「将らず、迎えず、応じて蔵せず」を今、呪文のように唱えるようになりました。将らず…過ぎ去ったことはくよくよ考えない。迎えず…明日の事は誰にも分からないし、何が起きるか分からないのだから、取り越し苦労をしない。応じて蔵せず…日々起きたことを淡々と受け入れて、淡々と処理する。眠る時には全部処理が終わって、腹に一物も残さずにすっきり眠れる。「将らず、迎えず、応じて蔵せず」という感覚が身に付いてくると、足るを知るという言葉の中に皆、収れんされてくるだろうと思います。

「足るを知る」を掘り下げると日本人、日本民族に思いを致すようになると思います。ですから、日本人がいつ頃この世に誕生したのか、特に縄文時代を考えるとよいと最近強く思っています。縄文時代、日本民族は何をしていたのだろうか、東洋の人々は何をしていたのだろうか、ヨーロッパの狩猟民族は何をしていたのだろうか・・・ということを考えてみると、日本人の果たさねばならないものが少し見えてくる気が致します。皆、「足るを知る」を掘り下げることによって見えてくるテーマです。

#### 出处進退は自分で決める

先程の岡本代表の挨拶では、本日の論語の「政（まつりごと）」の視点について、小沢さん・猪瀬さん・渡辺さんを出して戴いたので、非常に分かりやすいお話でした。もう少し付け加えると、小沢さんは政治家として剛腕と言われましたが、3. 11の時には現地に行かずに逃げたといわれています。そして、奥さんから三下り半を突きつけられました。

本日の論語と照らし合わせれば、やはり首をかしげるような行動でした。猪瀬さんも同じで、都知事の座に居座ろうというのが見え見えでした。口先だけで何とか退陣要求をかわそうとしましたが、どうにもならなくなって下がった。みんなの党の渡辺前代表も同じです。金銭感覚がどうも違うのだと思います。ただ共通して言えることは、延命です。詰め腹を切りたくない、出来る限り今のポストに居続けたいという私欲が前面に出過ぎていて、皆それぞれ引き下がるタイミングを間違えたと思っています。

組織のトップたる者は、引き下がる時期は自分で決めればよい。社長であれば社長として引き下がる時期はいつか、それは自分が決めることです。周りを見ていて思うのですが、功成り名を遂げて、〈大体やるだけやった、ここまでやったから私は引退してもよい〉というところまで行って辞める人は、ごく一握りです。皆、途中で雪隠づめになって辞めざるを得なくなることが多いようです。健康上の問題で引退を余儀なくされるとか、身の不始末やお金の不始末で辞めざるを得なくなる場合が非常に多い。出处進退は自分の思うようにならないのが普通ですから、自分で出处進退を決められたなら、こんなに幸せなことはありません。ただ、ポイントが一つあります。「散る桜 残る桜も 散る桜」と言いますから、散ることを常に想定していた方がよろしいでしょう。世の中には散ることを考えない桜ばかりが多いので、論語の一節を見て、自分の散り時はいつか、散り際はどうか、考えるとよいと思います。色々な組織などは任期が決まっているから引退しやすいですね。しかしながらプーチンさんのように、自分でルールを変えて延命を図るような人も当然多くいます。

自分で引退の条件を決めておくことも良いと思います。〈こういう条件が重なった時には、すかさず辞める〉という具合に決めておけばよいのです。私の場合は、シムックスが世の中から糾弾されるような問題が起きて責任を取らなければいけない、という事態になった時には代表取締役会長であり創業者である私が即座に辞める。若い経営陣を残す代わりに、創業者またはそれに類する人たちが皆引退する。燃え上がりそうになったら即座に鎮火させる、と自分自身のルールを決めて社内でも公表しています。

では、論語の解説を致します。本日は顔淵第十二 16～19 です。

【一六】子曰く、君子は人の美を成し、人の悪を成さず。小人は是に反す。

孔子が言うには、大人物は他人が良い事をしていれば応援し成功させようとするし、悪いことをしようとしていれば止める。小人物はそれとは正反対の動きをするものだ。

大人物は、人が正しい道を行くように陰に陽に応援するものだ。しかし小人物は、人が良い事をやっていたら羨ましく思って足を引っ張る。人が悪い事をしていれば助長させようとする。悪い事をしているのを止める事は結構難しいと思います。ですからここは、悪事に手を染めていると知らず知らずの内に引っ張り込まれてしまう、とお読みください。あの人は素晴らしい事をしていると思ったなら、自然に応援していく気持ちになればよろしいでしょう。小さな例ですが、先日、電車に乗った時のことです。娘が亡くなった後でしたから、おそらくよれよれになって立っていたのでしょう。目の前に座っている若者が、最初は私をチラッと見て下を向いてしまったのです。少しして意を決したように「どうぞ」と言って席を譲ってくれました。なかなか席を譲るにもタイミングが必要だし、決心が要るようです。顔を見た瞬間に「どうぞ」と言うのであれば素直なのですが・・・、きっと私に席を譲るまで、この青年は心の中の葛藤があるのだろうなと思って見ていました。

良い事をしようと思ったら、躊躇わずにずっと動けるように心を訓練しておくとうろしいですね。悪い事をしているのを咎めるのは難しいですから、これも訓練が要ります。自分自身そういう習慣を持つと良いでしょう。

【一七】季康子<sup>きこうし</sup> 政<sup>まつりごと</sup>を孔子<sup>こうし</sup>に問う。孔子<sup>こうし</sup>対えて曰く、政<sup>せい</sup>は正<sup>せい</sup>なり。子<sup>し</sup> 帥<sup>ひき</sup>いるに正<sup>ただ</sup>しきを以てせば、孰<sup>もつ</sup>か敢<sup>たれ</sup>て正<sup>あえ</sup>しからざらんと。

このとき孔子は68歳ですから結構な年輩です。季康子の父親の季桓子は孔子を活用できなかったことを悔いていましたから、息子に遺言で残しました。それを受けて、季康子は孔子に良い話を聞きたいと思っている。そういう背景があります。

季康子が、どのように政治を行えばよいか孔子に尋ねました。

孔子が答えました。「政は正しいことが必要である。総理大臣であるあなたが国民を引っ張って行く時に、自分が正しい道を歩んでいけば、誰があなたに刃向って悪いことをするものでしょうか。」

総理大臣であるあなたが身を正しくすれば、国民は皆ついてくる。先ず自分の身を正しくしなさい、と孔子が答えています。季氏一族は不正をして国の金を自分の懐に入れていましたから、ここはかなり皮肉が入っています。あなたが自分の私欲を満たそうとして国中の金を横取りしているのだから、先ずそれをおやめなさいと暗に言っているわけです。

【一八】季康子<sup>きこうし</sup> 盗<sup>とう</sup>を患<sup>うれ</sup>えて、孔子<sup>こうし</sup>に問う。孔子<sup>こうし</sup>対えて曰く、苟<sup>いやく</sup>も子<sup>し</sup>にして不<sup>ふ</sup>欲<sup>よく</sup>なら

ば、<sup>これ</sup>之を賞すと雖も<sup>いねど</sup>も窃まざらんと。

季康子は旗色が悪くなって、別の質問をしました。

「国中に盗賊が多いが、これはどうしたものだろうか。」

孔子が言いました。「あなたが私利私欲を貧らなければ、国民に懸賞を出すと言っても、誰も盗みをしなくなるでしょう。」

盗人が多いのはあなたが悪いからだ。あなたが大盗賊であることを自覚して身を正せば、盗人はいなくなる。あなたの姿勢・実行力によって、国民はがらんと変わるものだ・・・と同じ言葉が返ってきました。孔子は、いかにトップが大事かということを教えています。

【一九】<sup>きこうし</sup>季康子 <sup>まつりごと</sup>政を孔子に問いて曰く、<sup>こうし</sup>如し<sup>と</sup>無道<sup>い</sup>を殺して、<sup>も</sup>以て<sup>わどう</sup>有道<sup>ころ</sup>に就かば如何<sup>もつ</sup>と。孔子<sup>ゆうどう</sup>対えて曰く、<sup>つ</sup>子 <sup>い</sup>政<sup>いかん</sup>を為すに、<sup>こうし</sup>焉んぞ殺<sup>い</sup>を用いん。子 <sup>し</sup>善<sup>ぜん</sup>を欲せば、<sup>ほつ</sup>民 <sup>たみ</sup>善<sup>ぜん</sup>ならん。君子<sup>くんし</sup>の徳は風なり。小人<sup>しやうじん</sup>の徳は草なり。草 <sup>くさ</sup>之に風を上うれば、<sup>これ</sup>必ず<sup>かぜ</sup>偃<sup>くわ</sup>すと。

更に季康子が政治について孔子に聞きました。「もし、悪い事をする者を処刑して、良いことをしている者には褒美をあげ、育てようとしたらどうでしょうか。」

孔子が答えました。「政治をするのに、どうして死刑を執行しようとするのですか。あなたが良い事をしていると国民が納得すれば、同じように善いことをするものです。大人物の仁徳は風にたとえられ、小人物の仁徳は草のようなものです。風が吹けば草がなびくように、国民に対して良いことをすれば、国民も同じように馴染んでくるものです。」

「政を為すに、焉んぞ殺を用いん」・・・北朝鮮はまるっきり逆の形でこれを実行したと思います。推測ですが、張成沢という人は軍隊のお金を自分の懐に横取りできるように仕組みを作り直して、軍隊から失脚させられた。それで金主席が見せしめのために、また自分の実権を確立するために、軍の提案にのったわけでしょう。自分の怖さを見せつけるために、一族郎党を完膚無きまでに射殺しました。そういうものを見せられては、国民は震え上がります。

孔子は一貫して季康子に、先ず貴方が良い事をしなさいと言っています。トップが如何に大事かということです。翻って現代の状況を見ると、どうでしょうか。大人物はいますか？ 政治家を見るのが早いと思いますので、先程、岡本代表幹事が言った小沢さん・猪

瀬さん・渡辺さんを考えてみてください。そのバトンタッチをした人についてはどうでしょうか？ 君子と言えるような人でしょうか？ ……どうやら大人物はいませんね。せめて中人物くらい出てくれると良いなと思います。

### 横軸から見る — 日本の底力 —

今朝の日経新聞を見て気になったことを申します。

○予防医療、新興国へ輸出 …… 経産省は中国やブラジル、ミャンマー、インドといった国々へ予防医療のサービスや技術の輸出を始めようと考えています。

○アルバイトの時給が上昇 …… 人出不足でアルバイトの時給が首都圏は 1,000 円に接近している。特に外食産業の人手不足は深刻で、和民は全体の店舗の 10%にあたる約 60 店舗を閉鎖予定とありました。すき家もアルバイトが集まらなくて、一部店舗を休業しています。

○大学の受験料値下げ …… 特にネットの出願者には受験料を安くするという大学も出ているようです。大学も人が集まらなくなって、まずは受験料を値下げして受験生を確保するのが狙いでしょうが、だんだん大学の数も半分くらい減ると思っています。

○エネルギー、地域間格差が広がる …… 電力会社 9 社の中で一番高いのは東電で、一番安いのが北陸電力、その差は 1383 円で 19%割高だそうです。日本の電力事情は地域によって格差が生じている。ですからもう電力会社から電力を買う時代ではなくなってきていると感じます。個人で発電をして自給する、或いは会社が発電をして売電する、そういう動きがだんだん普通になって来ると思います。

○株が日本を素通り …… 日本株への期待がしぼんで、海外勢は新興国や欧州にシフトし東京市場を素通りしている、という記事がありました。

こういった記事から推して見ると、＜日本の底力＞というのが見えてきます。新聞・テレビ・ネットを見ると、色々な状況がたくさん出て来ます。我々の学びは、そういった問題点を縦軸と横軸の中に置いて、これがポイントだというものを浮き彫りにしていく。

医療の輸出については、日本はかなり力があると見えます。アルバイト・人出不足の結果、店を閉めるとか、一方ではロボットを開発する動きが進んでいます。ですからかなり柔軟な対応をしています。こういう点が横軸に並ぶと、見えてくるのは、日本の底力が世界に比べて結構あるということです。

### 縦軸（歴史）から見る — 平和から戦争へ —

縦軸で考えます。日本の歴史を眺めると、平和の時代が非常に長いけれども、やはり戦争があつて平和、平和があつて戦争と交互に繰り返されています。戦争→平和→戦争→平和という順番で捉えた時に、今は平和が長いけれども、どうしても次は戦争の時代に入ると考えられます。2つの視点からそれを検証できます。

一点は消費税です。消費税が8%に引き上げられました。10%が目前にありますけれど、私はもっと上がるという気が致しますが、皆さんは如何でしょうか。更に、他の税金も上がります。高額所得者については、平成27年度から所得税が現行の40%から5%プラスになります。住民税や消費税、その他目に見えない税金もありますから、実感でいくと稼いだ分の6割は税金で4割が手取り、そういう時代に入ったと思っています。

では、上がった税金を何に使うのでしょうか。表面的に見えるのは、国が借金をしているから、借金をしてお金をつくりないと国が回らないから、と言っていますが、官僚を半分切つてしまえばよいし、給料を半分にすれば良いのです。やり方を考えれば幾らでも方法はあると思いますが、税金だけを上げようとしています。

歴史を振り返ると、戦争の時には税金を上げて戦費を調達しています。前にも申し上げましたが、もともと源泉徴収は戦費調達のために考え出された仕組みです。戦争が終わったら止めるということで、天引きを始めたわけです。それが今や重要な国家の収入源になっています。年金も同じです。戦費調達のために年金が始まったわけですが、当時は男性の平均年齢が50歳に達していませんでした。つまり年金を払う頃には、かけた人はだいたい死んでいるというわけですから、詐欺のような話です。

最近では大震災の後に、個人にも法人にも復興税という税金をかけました。このように、眼に見えない形で税金を取られることに国民は慣らされています。8兆円の復興予算を初年度は青天井で使って良いとなっていました。予算の6割を使い、そのうち被災地に使われたのは16%に過ぎません。大半は、まるっきり関係ない所にお金がばら撒かれたわけです。

日本の国のお金の使い方は腐っています。しかしながら、お金を集める事に国は慣れた。一方、お金を取られることに国民は慣れた。そこから何が見えてくるか……。国が国民からお金を取ろうとする仕組みが出来上がってきたということが一つあります。

もう一つ、国民投票法があります。現時点では選挙権は20歳以上、投票権は18歳以上となっていますが、現実には機能していません。それを今回、国民投票法改正の続案が通りました。今回の改正案は、施行されると20歳以上が対象ですが、4年後は18歳以上の人は選挙権を持つこととなります。そうすると4年後、国民投票で18歳以上の国民の過半

数が憲法改正しようとなれば、自動的に憲法改正がなされる。同盟国であるアメリカが戦争を仕掛けられたなら、日本は武器を持って応援するということになります。その先に見えてくるものは徴兵制度の復活です。戦争をする場合、まず必要なのはお金（戦費）、次に兵隊です。兵隊を作るには憲法 98 条を改正して、赤紙一枚で兵隊が集められるような仕組みを作る必要がある。その為に国民投票法を改正しておかなければならないわけでしょう。

こう考えると、今回の消費税引き上げから見えてくるのは、戦費調達の仕事です。そして国民投票法の先は、兵隊調達の仕事です。また、それらを活用する政府が見えてくる。戦費調達の仕組みが整って、4 年後の国民投票法で兵隊を作り出す仕組みがだんだん出来てくる。政府はそういう方向で動いている。・・・そこから先は、マクロで見れば今は平和ですが、その次は戦争が見えてくる。間違いなく日本は戦争に向かって準備を始めています。

安倍さんは何故そういう仕組みを考えているかといえば、領土紛争が始まっているからです。ロシアがウクライナを合法的に取ろうとしています。そうなれば中国は大手を振って日本を攻めてきます。そして北朝鮮や韓国、違った形で台湾も領土拡張の動きを始めるでしょう。世界的に見ると、今、アメリカとロシアの代理戦争をあちらこちらでやっているわけですが、アメリカが自国を守ろう守ろうと形を変えました。木内信胤先生が言われた通り、アメリカはどんどん坂道を転げ落ちていきます。アメリカの国力が弱った瞬間から、ロシア・中国が世界に領土拡張の手を出しています。具体的な所では、中国はチベットや蒙古の領土併合に成功しています。その時のやり方を調べれば、日本も今それを仕掛けられているのは明確です。日本はそれに対抗するために力を持たなければいけないから、兵隊を作り・お金も作る、という動きを一所懸命やっているわけです。

安倍さんはアベノミクスを打ち出して、給料アップ・景気回復・デフレ脱却といった国民に良く思われるような政策だけに絞って総理大臣になりました。総理大臣になって、それだけは国民にばら撒いているけれども、危機感をもの凄く感じているから、今申し上げたような動きを進めているわけです。そのうち安倍さんの表の顔と隠れている顔が交差します。表と裏の顔が逆になると、安倍さんは失脚するでしょう。まだ見えていませんが、今年の秋口にはだんだん見えてきます。今年の暮れには、アベノミクスは失敗だという事が当たり前の話になると思っています。

お時間が参りました。最後に、本日ご紹介する本は、『心に成功の炎を』（中村天風述）

です。今月から開講する新規講座では中村天風先生と唯識学をお話していこうと思っています。天風先生のお話は知足の基本であり、また応用であると捉えていますので、3回続けてご紹介致しました。